

株式会社 構造ソフト

今月のイチオシ

2017年4月号

拡張情報

「BUILD.GPIV」(Ver.1.02) …P1

Q&A (適判等からの指摘事例)

「BUILD.一貫V」Q&A …P3

◆「BUILD.GPIV」(Ver.1.02)

・高強度せん断補強筋を扱えるようにしました。

「BUILD.GPIV」が基礎梁に高強度せん断補強「スーパーフープ」「OT685 フープ」「スーパーフープ 685」「J フープ 785」「パワーリング 685」に対応しました。なお、入力画面や計算書では呼び径で表示します。以下の表を参照して下さい。

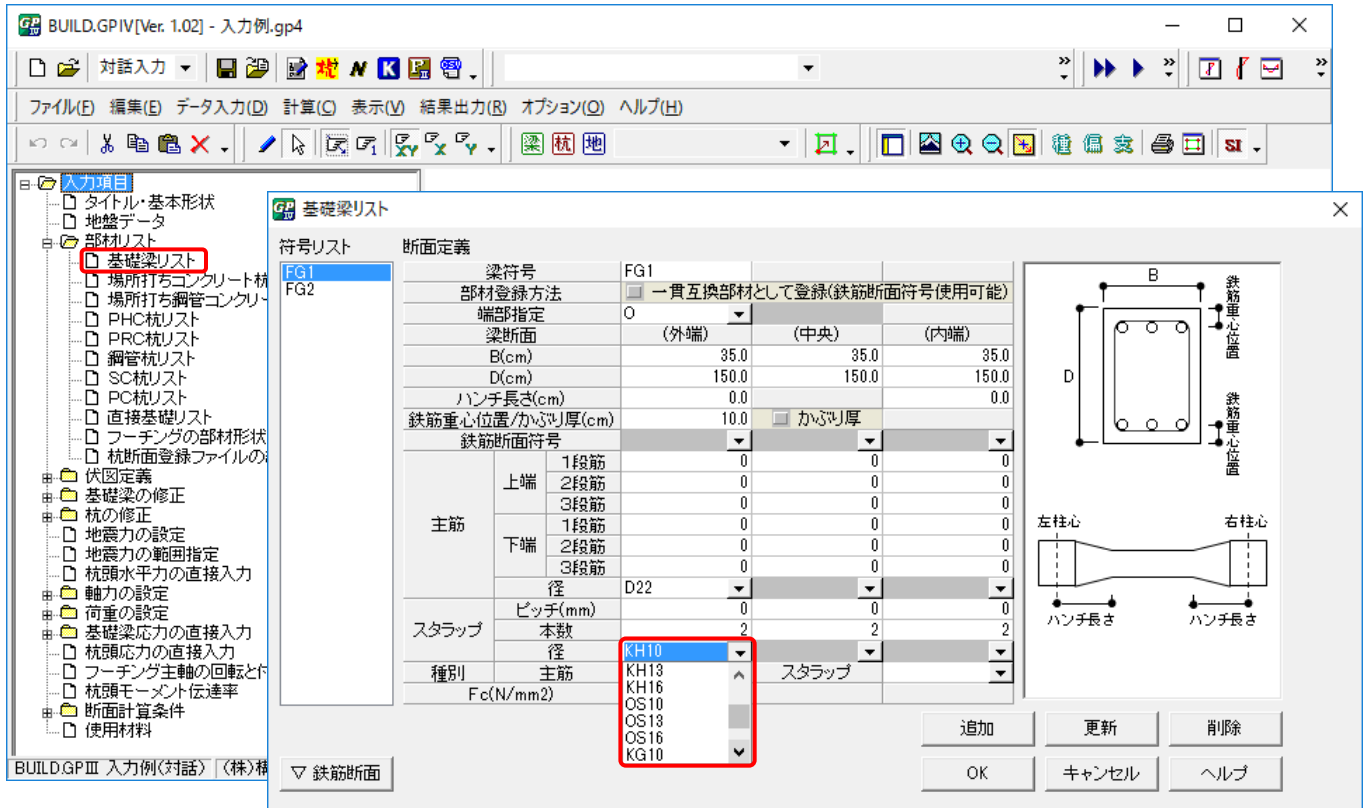
高強度せん断補強筋	会社名	呼び径
「スーパーフープ」 (GBRC 性能証明 第 10-10 号改 3)	岸和田製鋼株式会社 岸和田金属株式会社	KH10,KH13,KH16
「OT685 フープ」	大谷製鉄株式会社 昭和産業株式会社※ 北興昭和株式会社※ 宮城昭和産業株式会社※ 株式会社小財昭和スチール※ 株式会社小財スチール※ ※昭和産業グループ	OS10,OS13,OS16
「スーパーフープ 685」	岸和田製鋼株式会社 岸和田金属株式会社	KG10,KG13,KG16
「J フープ 785」	JFE 条鋼株式会社	JD10, JD13,JD16
「パワーリング 685」	東京鉄鋼株式会社	TA10,TA13,TA16

今回「BUILD.GPIV」に組み込んだ高強度せん断補強筋は、全て同じ設計施工指針を参照して計算を行っています。

SABTEC 高強度せん断補強筋設計施工指針

https://sabtec.or.jp/sabtec_design_manual2.php

対話入力の場合は、スタップの径のところ呼び径を選択して入力します。



一括入力の場合は、以下の下線部のように呼び径で入力を行います

```
FGIL FG1 0 BD-35*150 D32 2-OS13 * * * 0/0 6/2-6/2-150-4 6-6-150-4
& 6/2-6/2-150-4 FC27
```

「BUILD.一貫V」で基礎梁のスタップを呼び径で入力しておけば、そのままデータリンクします。



◆「BUILD.一貫V」Q&A (適判等からの指摘事例)

Q. 適合性判定機関より、S造の計算ルート3の物件に関して、S造柱梁仕口部の検討を「接合部設計指針」に変更し、「2015年版 建築物の構造関係技術基準解説書」P618を参考にして、部材種別やDsを決定して下さいと指摘を受けました。対応方法を教えて下さい。

A. 「2015年版 建築物の構造関係技術基準解説書」P618では、角形鋼管柱に取り付く場合に仕口部において、鋼構造接合部設計指針による検討時で $\alpha Mp > Mu \geq Mp$ となる部材については、部材群としての種別をCとしてよいことが記載されています。

「BUILD.一貫V」でこの条件で保有水平耐力計算を行う場合は、以下の設定を行って下さい。

- ・計算実行画面で技術基準モードを「2015年版 技術基準」にして下さい。
- ・許容応力度計算データの [DES4] (S造断面計算条件) の5項目 (柱-梁仕口部強度の検討) を3 (接合部設計指針により行う) にして下さい。
- ・保有水平耐力計算データの [NST4] (種別の制御) の13項目 (部材群としての種別に柱梁仕口部の保有耐力接合の検討結果を考慮) をデフォルト (入力を省略) あるいは、1 (考慮する) か 2 (考慮する(直交方向を考慮しない)) にして下さい。

この設定で計算を行うと、「鋼構造接合部設計指針」による方法で仕口部の破断強度の検討を行ない、 $\alpha Mp > Mu \geq Mp$ となる部材がある場合に、部材群としての種別をCとして、Dsを決定します。

※ [弊社ホームページのQ&A](#) では、この他にも、適判等からの指摘事例のQ&Aを65件以上、通常のQ&Aを2950件以上掲載していますので、ご活用下さい。なお、Q&Aの閲覧には[サポート会員登録](#)が必要です。